



2年次
保育系

総合学科家政科学系列シルクガールズプロジェクト

松ヶ岡つなげるプロジェクトでシルクの草木染イベントを開催

鶴岡中央高保育系2年生がイベント企画



参加者と一緒に記念撮影する鶴岡中央高の2年生たち
＝鶴岡市・松ヶ岡開墾場（撮影時のみマスクを外す）

鶴岡シルク 覚えていてね

鶴岡シルクを次世代に受け継ごうと、鶴岡市の鶴岡中央高兼子由香校長の保育系2年生10人が「松ヶ岡つなげるプロジェクト」を進めている。23日は絹産業の歴史を伝える同市の松ヶ岡開墾場で、家族連れを対象にシルクの草木染イベントを開催した。様子を撮影した写真はポスターにして贈る計画で、家族の思い出を形に残すことで地元の魅力を伝承してほしいとの思いを込めている。

同校ではシルクを使って、食品を作るなどしている。被服系がドレス、食物系が「保育系でも何かできない」

活動ポスターに 継承へ、親子ら草木染

か」と考え、子どもと関わるのが得意な点を生かし、親子2世代、3世代を巻き込んだイベントを初めて企画した。鶴岡「サムライゆかりのシルク」推進協議会（会長・皆川治市長）の支援を受け、8月から準備を進めてきた。

今年23日は市内の親子連れらら5組13人が参加。生徒を案内役に開墾場内を散策したほか、桜のチップなどを使い、シルクのハンカチとスカーフを染めた。3世代で参加した同市朝陽一小1年齋藤友葵君(6)は「葉っぱを拾ったり、染めたりするのが楽しかった」とにっこり。母の愛子さん(39)は「親子3世代で楽しめた」と笑顔を見せ、23日が誕生日という祖母のあや子さん(73)は「いい記念になった」と顔をほころばせた。

活動の様子はプロのカメラマンが撮影した。この写真を生徒たちがレイアウトし、ポスターを制作する計画だ。リーダーの田林麻央さん(17)は「案内の時にはより子どもたちに分かりやすい説明を心掛けた。鶴岡シルクの発祥の地である松ヶ岡について興味を持ってもらい、歴史をつなげてほしい」と話していた。

(近岡国史)

